

「世界の記憶」に登録された 朝鮮通信使

比較文化学者・評論家 **金 両基**さん

2017年10月31日、「朝鮮通信使に関する記録」がユネスコ「世界の記憶」に登録されました。そこで、静岡市において1987年から清見寺に残された朝鮮通信使の歴史文化遺産の意義を説き続け、ユネスコ「世界の記憶」への登録申請に際しては韓国側の登録推進委員として「日韓両国の共同作業」とするべく尽力されてきた金両基さんに、これまでの取り組みを振り返っていただきました。



朝鮮通信使の遺産を掘りおこす

江戸幕府と朝鮮王朝を朝鮮王朝の使節団が往来していたことを知ったのは、東京の神田神保町の古書店であった。『歴史地理臨時増刊 朝鮮號』という日本歴史地理学会の機関誌で、そこには朝鮮からの使節団の絵図が8枚掲載されていた。解説を読んでも当時大学生であった私には全然判らなかつたが、執筆は明治時代の著名な日本人であった。

その冊子で豊臣秀吉の侵略外交、徳川家康の平和主義・平和外交といった見慣れぬ文言に出会った。秀吉の侵略戦争や外交はわかるが、家康の平和主義や平和外交は理解出来なかつた。その冊子は明治43年（1910年）に発行された韓国併合記念號であるが、日本の植民地にされた朝鮮総督府時代は何故か歴史の表舞台から消されていた。

記念号との出会いから10年ほど過ぎた60年代半ばに韓国の大学に招かれ、ソウルの仁寺洞（インサドン）の古書店で記念号の写真コピー本に偶然出会い、購入した。そのコピー本から私は朝鮮通信使の歴史文化遺産を知り、多くの疑問を自ら説くようになったが、ライフワークにする契機は清見寺訪問である。

1987年の静岡県立大学の開学時に外国人・韓国人として日本の国公立大学正教授第1号として赴任し、その12月に興津にある清見寺を訪ねて朝鮮通信使の歴史文化遺産を観覧した。実物の遺産

を観たのはその時が初めてである。本堂の壁にかかった有名な詩人でもある南壺谷の扁額が眼についた。彼は私の母方の一族で、私が子どもの頃から名前を聞かされてきたが、漢詩なので内容までは知らなかつた。思えばその漢詩との出会いが通信使に関心を深める切っ掛けになった。

朝鮮通信使再現行列を静岡で実現

そこで私は県内各地での講演の時、「東海道の繁栄に朝鮮王朝からの使節団の往来が大きく寄与した。その使節団を観るために人が集まり、薩埵峠など新しい道も作られた」といった短い話をした。静岡県で2001年の東海道400年祭の事業委員会が発足し、私はその委員に委嘱された。東海道繁栄の私のコメントが関係者に届いていたのである。

私は委員会で、朝鮮通信使再現行列への支援を要請し、横浜から参加した委員から賛成の声が上がり、可決され、60万円の支援金を得た。静岡には衣装や道具、演者もなく、対馬から一切を借りて当日の準備までしてくれろというので「静岡に文化の風をの会」が運営を担当した。費用が120万円だということで、私は日本市民や韓国民団の団員たちに寄付をお願いして歩いた。

静岡商工会議所会頭であった川井祐一氏との出会いは1999年11月の静岡と韓国の大邱商工会議所業務提携締結20周年記念祝賀会に協力したことに始まる。祝賀会が成功裏に終わったある日、

招かれた席に行くと大石益光氏、川井祐一氏、戸塚進也氏がそれぞれご夫人同伴で出迎えてくれた。私も妻同伴である。こうした雰囲気の中で川井氏との交流が始まり、寄附集めにも大変世話になった。

2001年10月28日、青葉シンボルロードの架設舞台で第1回朝鮮通信使再現行列を行い、小嶋善吉市長が將軍を演じ、私が正使役を演じた。これが静岡での再現行列の始まりである。その翌年から静岡県と静岡市の支援を得て県民・市民・韓国民団・静岡朝鮮民族学校の学生などが協力し合って成功裏に回を重ね、2007年の朝鮮通信使400周年記念事業を展開するまでこの仕組みを維持し、他県や韓国の釜山市などにも知られるようになった。

県と市が共同で費用を負担し、静岡商工会議所会頭で静岡県日韓親善協会会長でもあった川井氏も私も委員として参加し、日韓の歴史を語りあうほどになった。通信使の遺産が育んだ二人の友情だと思っている。

釜山文化財財団と静岡との交流

2002年はサッカーワールドカップ大会が日韓共同で開催され、通信使行列も話題に上り始め、ソウルから日光までの友情ウォークが開催されることになり、NHKから全国放送するための協力を頼まれ、私は静岡県と静岡市を説得した。NHKの報道は、韓国のKBSでも